

比較家族史学会

会報 比較家族史 58

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

学会事務連絡先 大学生協学会支援センター内 比較家族史学会
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 TEL 03-5307-1175 FAX 03-5307-1196
E-Mail : hikakukazokushi@univcoop.or.jp 郵便振替 00130-4-25222

比較家族史学会研究大会第54回大会

- 【日時】 2012年6月16日（土）～17日（日）
- 【会場】 京都大学芝蘭会館稲盛ホール（京都大学吉田キャンパス医学部構内）
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町京都大学医学部構内
電話 075-753-9336（芝蘭会館事務室）
※京都市バス 京大正門前バス停下車南西へ徒歩2分
京阪電車 神宮丸太町駅下車北東へ徒歩10分
URL <http://www.med.kyoto-u.ac.jp/siran/kotsu.htm>
- 【連絡先】 京都大学大学院文学研究科 グローバルCOE事務局
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
e-mail intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp 電話 075-753-2734
URL <http://www.gcoe-intimacy.jp/>
- 【参加費】 会員・学生1,000円、非会員2,000円
- 【懇親会】 5,000円

◆プログラム

6月16日（土）

- 【受付開始】 9:30～
- 【会長挨拶】 高木侃（専修大学） 10:00～10:10
- 【自由報告】
- 報告① 中島満大（京都大学）「近世後期海村の結婚・離死別・再婚
——肥前国野母村を事例として」 10:10～10:50
- 報告② 戸石七生（東京大学）「幕末相模国大住郡横野村における養子縁組
——近世近代日本の家・村・百姓株」 10:50～11:30
- 【総会】 11:30～12:00
- 【昼食休憩】 12:00～13:00
- 【シンポジウム】（使用言語：英語・日本語、同時通訳あり）
「アジアの家族と親密性——アジア家族研究の共通基盤形成」
- 趣旨説明 落合恵美子（京都大学） 13:00～13:30
- 報告① タネート・ワンヤンナワー（タマサート大学：タイ）
「家族イデオロギーと国家」 13:30～14:00

コメント① 林研三 (札幌大学)	14:00 ~ 14:10
質疑応答	14:10 ~ 14:30
報告 ② 殷棋洙 (ソウル国立大学) 「家父長制と父系制」	14:30 ~ 15:00
コメント② 米村千代 (千葉大学)	15:00 ~ 15:10
質疑応答	15:10 ~ 15:30
【休憩】	15:30 ~ 15:40
報告 ③ パトリシア・ウベロイ (開発途上社会研究センター：インド)	
「性愛」	15:40 ~ 16:10
コメント③ 八木透 (佛教大学)	16:10 ~ 16:20
質疑応答	16:20 ~ 16:40
報告 ④ グエン・フウ・ミン (ベトナム社会科学院) 「結婚と離婚」	16:40 ~ 17:10
コメント④ 浜野潔 (関西大学)	17:10 ~ 17:20
質疑応答	17:20 ~ 17:40
【懇親会】 会場 レストランしらん	18:00 ~ 20:00

6月17日 (日)

【シンポジウム 2日目】

【午前の部】

報告 ⑤ 落合恵美子 (京都大学) 「ケア・レジーム」	10:00 ~ 10:30
コメント⑤ 田淵六郎 (上智大学)	10:30 ~ 10:40
質疑応答	10:40 ~ 11:00
報告 ⑥ キャロライン・ソプリチア (フィリピン大学) 「ジェンダー」	

11:00 ~ 11:30

コメント⑥ 三成美保 (奈良女子大学)	11:30 ~ 11:40
質疑応答	11:40 ~ 12:00

【昼食休憩】

12:00 ~ 13:00

【午後の部】

報告 ⑦ 長坂格 (広島大学) 「フィリピン」	13:00 ~ 13:30
報告 ⑧ 侯楊方 (復旦大学：中国) 「中国」	13:30 ~ 14:00
報告 ⑨ 伊慶春 (中央研究院：台湾) 「台湾」	14:00 ~ 14:30
コメント⑦ 藤井勝 (神戸大学)	14:30 ~ 14:45
質疑応答	14:45 ~ 15:05
休憩	15:05 ~ 15:20
討論	15:20 ~ 17:00

【閉会挨拶】

17:00 ~ 17:10

【閉会】

17:10

運営委員：落合恵美子 (運営委員長)、廣嶋清志、米村千代、森本一彦

共催：京都大学大学院文学研究科グローバルCOE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」、京都大学大学院文学研究科アジア親密圏／公共圏教育研究センター

◆シンポジウム概要

「アジアの家族と親密性——アジア家族研究の共通基盤形成」

京都大学グローバルCOE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」では、アジア地域の家族研究の共通基盤形成をめざして、海外パートナー拠点の研究者と協力して、『アジアの家族と親密性』と題した7巻の英語シリーズ出版のための作業を続けている。本シリーズは、アジア9社会（日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、フィリピン、タイ、インドネシア、インド）の国内学界においてもっとも重要で影響の大きかった著作を収集し精選して英訳し、アジア地域の相互理解とアジア以外の地域の学生・研究者のアジア理解に資することを目的としたものである。地域言語で書かれた文献を優先するが、英語がおもな研究言語となっている社会ではそのかぎりではない。

シンポジウムには、各社会の編集委員をお招きし、まずテーマ別の6巻の編者から、それぞれテーマについての地域横断的な俯瞰と複数の社会に共通する重要トピックについて報告していただき、その後、いくつかの社会を選んでそれぞれの研究状況や関心のありかたを論じていただく。全体としてアジアにおける家族と親密性のありかたの多様性と共通性を明らかにし、とくに共通性がいかなる歴史的背景によりどのような論理で形成されてきたかを検討したい。

編集作業を通して、他の社会の研究者は日本の家族研究の独自の蓄積の厚さに強い印象を受けたとおっしゃっている。まさにその日本の家族研究を作り上げてきた比較家族史学会の会員との内容の濃い対話の場が生まれるようにしたい。（落合恵美子）

大会会場案内



京都市バス 京大正門前バス停下車南西へ徒歩2分

JR・近鉄京都駅から市バス206系統で約35分

阪急電車河原町駅から市バス201系統・31系統（約25分）

京都市営地下鉄今出川駅から市バス201系統（約15分）

京都市営地下鉄東西線東山駅から市バス206系統・201系統・31系統（約10分）

京阪電車出町柳駅から201系統（約5分）

京阪電車 神宮丸太町駅下車北東へ徒歩10分

◆学会からのお知らせ

1 会費について

平成24年度から会費が値上げされました。会費は次のように改訂されました。

- 一般 5,000円
- 院生会員・65歳以上会員 3,000円
- 終身会員 10年以上継続して会員であったことを条件として、以下の会費を納入することによって終身会員とする。
 - (1) 65歳以上は 30,000円
 - (2) 70歳以上は 20,000円
 - (3) 75歳以上は 10,000円 (75歳以上については経過措置 3年間)

◇65歳以上の会員は、毎年3,000円を納入するか、一括納入(終身会員)の選択制とする。

◇「院生会員」は、学会事務センターまで郵便・FAXおよびE-mailで学生証のコピーをお送りください。

会費についての問い合わせ・連絡先 大学生協学会支援センター内 比較家族史学会
住所 〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 Tel.03-5307-1175 Fax.03-5307-1196
E-mail : hikakukazokushi@univcoop.or.jp

2 平成24年度秋季大会と自由報告の募集

◇日時 2012年11月10日(土)

◇会場 松岡山東慶寺書院 〒247-0062 神奈川県鎌倉市山ノ内1367

◇内容 (1) 東慶寺見学(ご住職・高木会長の東慶寺についての説明を含む)
(2) 自由報告(2人)
(3) ミニシンポ「家族と親密圏」

■秋季研究大会の詳細な内容は、次号の会報でお知らせする。

■自由報告の募集 自由報告を希望される方は、7月末日までに報告要旨(A4用紙1~2枚程度)をそえて、運営委員長 高木侃会長(t-tadashi@sannet.ne.jp)にお知らせください。

3 新入会員および退会者について

資料にいくつかの不備があり、会報における掲載を断念したいと思います。新入会員は、初年度の会費(申込金)をそえて入会を申し込み、理事会の承認をえる段取りになります。次回会報に改めて掲載をします。

4 名簿の作成について

前回の「お知らせ」で、名簿作成のための確認の用紙を同封いたしました。また提出されていない方は、早急に提出するようお願いします。帰属および住所などに変更がある場合、「1」に記載のある学会支援センターの方に至急ご連絡をください。また、メールアドレスの連絡もよろしくお願いします。今年から学会からの「お知らせ」(7月と12月あるいは1月にしています)の連絡はメールで行うようになります。

5 編集委員会（年報）からのお知らせ

(1) 『比較家族史研究』第27号の編集が始まります。投稿をご希望の方は、7月23日（月）までにその旨を、論文の表題（仮題で結構です）とともにe-mailかハガキ等で以下のところにお知らせください。

e-mail makita@law.setsunan.ac.jp

郵送 〒572-8508 寝屋川市池田中町17 - 48

摂南大学法学部 牧田 勲（編集委員長）

(2) 27号で書評をご希望の方は、著書を1冊上記へお送りください。期日は9月末日までとさせていただきます。同号より書評は原則として編集委員会に送られてきたものを対象とします。なお、比較家族史学会という学会の性格上、または諸般の事情で、書評として取り上げられない場合もありますので、ご了解ください。

6 HPについてのご連絡

学会HPのURLが新しくなりましたので、お知らせします。それに伴い、内容も一新しました。新しいURLは以下の通りです。

<http://www.jscfh.org>

今後とも内容を順次、更新・充実していく予定です。よろしくご協力ください。

◆『追補版 新修 事典家族』（仮題）の編纂について

1 『追補版 新修 事典家族』（仮称）編纂の意義

1996年に『事典・家族』が刊行されて以来、16年の歳月が経ちました。その間、家族を取り巻く状況は大きく変化しました。その変化に対応した新たな『事典・家族』を編纂・刊行することは、比較家族史学会に課せられた社会的責務だといえるでしょう。さらに各学問領域における家族研究の進展のためにも、また本学会の活性化のためにも、『追補版 新修 事典家族』（仮称）を刊行する必要があると考えます。

家族の解体や家族の個人化と呼ばれる現象、グローバル化のなかでの家族の変貌、少子化や高齢社会の展開、日本でも1990年までには起こらなかった現象がさまざまな姿をとって起こるようになってきています。このように激動する家族の状況を、比較家族史学会ならではの学際的知を結集し、新しい現象を新しいデータと新しい用語を中心にまとめることは、社会的にも学問的にも意義あることだと考えられます。

2 学会としての意義

比較家族史学会も、創立30周年を迎えようとしています。この何年かの間に会員数が減少し、学会組織の硬直化がはじまり、魅力ある学会とはいえなくなってきています。若い世代の研究者のためにも、再び組織の活性化と若い力を再結集し、魅力ある学会として再生しなければなりません。そのためには、比較家族史学会らしい事業の展開が必要です。『事典・家族』に続くこのような学会の総力あげての家族に関する事典の編纂は、重要な意味をもつものと考えられます。

3 若手研究者および学生たちに対する意義

家族に関する新しい領域における事典は、若い研究者や学生たちに研究の方向性を示すことができますし、またこのような事典を提供することによって、新しい領域の研究・学習の便に

供することができるとともに、他分野の研究動向を知ることができ、一定の需要を見込むことができます。また、学生たちは卒業論文や修士論文で家族をテーマにする人が増えてきています。この数年来の婚姻率の上昇や離婚率の下降、そして特に3.11の震災以降の婚活活動の盛り上がりは、家族に対する若い世代の関心を物語っているといえましょう。このような新しい現象と学生たちの関心を踏まえて、卒業論文や修士論文・レポートの執筆に対して、重要な指針を与えることができる書物にしたいと考えます。

4 事典編纂の基本方針

本事典の編纂・刊行は、先述の通り、本学会の活性化を図ることを主目的としていますので、編集委員、および執筆者も、できる限り若い世代の人たちをお願いしたいと考えています。具体的には、編集委員はできる限り30代から40代の方々をお願いし、執筆陣も、できれば大学院生も含めた若手をできるだけ起用して、新しい学問動向に応えられるような、フレッシュで斬新な内容に仕上げたいと考えています。

5 編纂・刊行の具体的計画

2012年1月22日に第1回の編集会議を開催しました。そこで大枠を議論し、大項目に相当する項目案を、4月に提出していただくことになっています。それを受けて、4月28日に第2回の編集会議を開催する予定です。ここでは大項目の選定を行ない、その決定に向けた議論を行うつもりです。また同時に、小項目の選定に向けた作業を開始し、小項目執筆者選定に入る予定です。8月のできるだけ早い時期に小項目・執筆者を決定し、8月末から9月には、執筆依頼を行います。なお、原稿の最終締め切りは2013年3月末日の予定です。

6 編集委員

編集委員長は副会長の八木透が、また事務局長は理事の大野啓が務めることになりました。なお、現時点での編集委員の方々は以下の通りです。

小池誠・米村千代・小谷眞男・坂田聡・国方敬司・宇野文重・岡田あおい・久保田裕之
 三成美保・椎野若菜・上杉富之・田淵六郎・加賀谷真梨・政岡伸洋・堀田幸義・小谷みどり
 小玉亮子・小口恵巳子・大野啓・八木透（敬称略・順不同）

◆理事会 議事録

◇場所 桃山学院大学、日時 平成23年11月6日

◇理事出席者 大野、小島、小池、高木、三成、八木、廣嶋、牧田、村山、森本

◇委任状 12名

1 新入会員・退会承認について

新入会員：久保田裕之（大阪大学・家族社会学）、祐成保志（信州大学・社会学）、木曾恵子（京都大学・文化人類学）、杉井潤子（京都教育大学・家族社会学・老年社会学・社会病理学）、陳 玲（神戸大学・家族社会学）の入会が承認された。

退会希望（岡部千鶴・水林彪・寺内浩・松園万亀雄）の退会、（見崎恵子・阿由葉司・菊地靖・小川津根子・鄭暎恵・高田京比子・森明子）の退会は会費納入を条件に承認された。

2 事務委託について

前回の理事会で承認された事務委託について、委託先と契約書（すでに送付）を交わし、事務委託を開始したことの経過について報告し、承認された。内容は以下の通り。

(1) 委託先 株式会社大学生協事業センター 大学生協学会支援センター

(2) 連絡先 宛先 大学生協学会支援センター内 比較家族史学会

住所 〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

Tel. 03-5307-1175 Fax. 03-5307-1196

E-mail : hikakukazokushi@univcoop.or.jp

(住所変更・所属変更・会費の状況 等の連絡・問い合わせは、この住所・電話番号・e-mailアドレスを用いてください。)

(3) 主な委託内容 会費納入の管理、住所・所属変更(会員名簿管理)、学会の収入の管理、雑誌(年報)の在庫管理

3 春季研究大会・秋季研究大会について

(1) 第54回研究大会について 企画委員会報告承認。

(2) レジュメの事前の印刷については、京都大会が海外から報告者を招聘することから第54回研究大会では事前のレジュメ作成を行わず、第55回研究大会から実施する。

(3) 2012年度秋季大会は ① 日程2012年11月10日(土)、②場所は鎌倉の東慶寺において行うことを承認。企画等は高木会長が会員の協力を得て担当。翌11日の理事会の日程も承認、ただし場所については未定。

4 『年報』の編集について

(1) 年報第26号編集の進捗状況、特集2本「知識人のライフヒストリーと近代」・「諸文化における『近代家族』の諸相」、投稿論文2本等が、原案通り、承認される。また書評として取り上げるものは、著書のみとすること(論文はとりあげず)、なお、文献紹介では、自著紹介も可とする。

(2) 年報の体裁(横書き・縦書きの問題)につき、編集委員会で議論をいただき、運用するも、正式には次回理事会で承認を得る(編集委員会報告参照)。

5 『家族キーワードブック』(仮)の編集について

『事典家族 追補版』(仮)として検討していた案件について『21世紀家族キーワードブック』(前には「データブック」としてお知らせ)の刊行として、弘文堂との間で合意が成立した(役員会も承認)。この件に関する責任者として八木透副会長が選任された。

企画案にもとづき、主な項目と編集委員についての意見を求めた。八木編集委員長のもとで開催される委員会での結論に一任することになったが、会議でのさまざまな見解、この間のグローバルな学問動向などを反映する等の意見を参考にすることが補足的に提案された。主な項目と編集委員等については確定次第報告されることとなった。

6 あたらしい会計のあり方について

原案(主たる事項は入金管理は学会事務センターが行い、出金については学会会計担当が行うこと)通り承認。

7 早稲田大学出版部刊行の書籍(「シリーズ比較家族」)の在庫処分について

原案通り承認。

8 名簿の作成について

主な理由は来年度からレジュメの送付はメールで行うため、メールアドレス確認のために会員のアドレスの確認が必要であること。また、ここ10数年にわたって、会員名簿が作成されていない。100人以上の退会があり、また新入会員も多いので、会員を改めて確認する必要があること。さらに、年齢が会費の額に関わっているため、年齢を再度確認する必要があること。年齢不明者が相当数いることである。

なお、会員名簿の作成にあたっては、最低限度「名前」「所属」「所属先住所」「所属先電話（FAX）番号」「専門分野」「メールアドレス」を入れることとし、「個人の住所」「電話（FAX）番号」は個人の選択に委ねること、名簿作成の経費は来年度の支出とすることが承認された。

9 基礎法学のシンポジウムについて

基礎法学を中心とした6学会を中心として、日本学術会議で毎年シンポジウムを開いている。2013年度は比較家族史学会が幹事学会として開催する。テーマは、「家族と親密圏」（仮）で行う方向ではほぼ決まっている。2012年に秋の研究大会の半分をこのテーマでのミニシンポに当てる予定である。

6学会についての事務連絡は、シンポジウム開催とも関連するので、奥山・森で行うことが承認された。

10 HPの開設について

国立情報学研究所による学・協会の情報発信サービス（学・協会に対するHPの設置サービス）が廃止されるにともない、新しいHPの開設を模索していたが、株式会社NU-FACE（代表取締役 水野勇）に依頼することが決定した。開設費用は25万円で、4回の更新を含めて年間5万円程度。開設は今年9月か10月を予定し、契約はHPの完成時に行うこととする。HPについては、三成美保理事が担当者となります。進捗状況は三成理事より報告。

11 JST・年報のWEB公開の件

昨年まで、学会事務局の方でWEB公開の際に各論文に文献リストを作成していたが、担当者の手間を考慮し、本年より論文執筆者自身がWEB公開用の文献リストを作成することが承認された。

なお、その際の作成要領については現在JST担当の委員で検討中である。

12 文献目録リストの件

従来『比較家族史研究』に掲載されていた文献目録は本年より学会ホームページに掲載することが承認された。会員へのアンケートは従来の葉書ではなく、メールで連絡することが原則になるという原案も承認された。

訃報

昨年、藤原明久会員（神戸大学）が逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

学会事務連絡先 大学生協学会支援センター内 比較家族史学会
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 TEL 03-5307-1175 FAX 03-5307-1196
E-Mail : hikakukazokushi@univcoop.or.jp 郵便振替 00130-4-25222